



きもの体験交流 (1)

千葉 麻里

2022年4月28日(木)午後から、毎年恒例のきもの体験を通商代表部の方々にしていただきました。

例年通り、ホールに何枚もの敷物を広げ事前に郵送したダンボール2箱分のきものに、持参したものを加えて置きます。仕事の合間をぬって、時間差で入ってくる方々に、それぞれ好きな色ものを選んでもらいます。女性の振袖は色とりどりで華やかなので選ぶのも楽しいです。

今回は、意外にも男性の希望者が多く、写真撮りで外に出るとなかなか帰って来ないので、次の方が待つようになってしまいました。男性用は正式なものと言えば、結婚式に着るような黒の紋服になりますが、できるだけ大きいものを用意したつもりでも背丈が足りずに苦労しました。

振袖もお好みの色を他の方が着ていると、写真撮りの間、待つこととなります。3歳、7歳用のきものは人気のきものが集中したりするので、余分に持つてくる必要を感じました。



着付けは辻田直美、林由美子、木挽輝香のいずれもベテランの着物の指導者で初めてではなく、安心して一緒に仕事のできるメンバーです。山岸さんもお手伝いに立ち寄ってくれたので、見ていただきました。

主席代表のパブレンコさんも参加してください、ご家族で撮影して楽しんでいただきました。今回も、一人で二枚着ていく方もいらっしゃいました。着物愛好家が増えてくだされば、これほどうれしいことはありません。女性13名、女の子4名、男性10名、男の子4名の計31名の方々が参加されました。

最後に、いつもながらご婦人方のお菓子をお頂戴し、ゆっくりとお茶をいただいて会場を後にしました。いつも協力してくれる同僚の着付けの先生方、ありがとうございます。日本の伝統文化に関心を寄せてくださる通商代表部の皆様にも感謝いたします。